

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500096		
法人名	有限会社 アーバンエステート		
事業所名	グループホーム まえはら		
所在地	沖縄県宜野湾市真栄原3-6-28		
自己評価作成日	平成30年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成30年 4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4790500096-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JizyosyoCd=4790500096-00&amp;PrefCd=47&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成30年 2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出合いに感謝し、入居者さんが中心になるように、周りを職員・ご家族・関係者で支援できるように心掛けています。入居者さんの希望があれば、実現できるように皆で方法を考え、職員が一人で悩まないようにお互いでコミュニケーションを大事にしている。また、一人ひとりに合った役割分担をし、それをお互いで支え合っている。  
心身の状態に合わせたケア・レク活動を行い、楽しみのある自分らしい生活ができるように支援していくことを目標としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は平屋で住宅街に位置している。隣接する小学校の校庭で体操をする子供たちの元気な声が、事業所にも聞こえてくる。専任の調理担当職員が3食調理を行い、職員は朝・昼・晩の何れか1食を利用者と一緒に食事をしている。市内外に系列の事業所があり、合同で敬老会等の行事を実施し、リフト車を借りて花見や公園等にドライブに行く等、利用者全員で外出が出来るよう支援に取り組んでいる。勉強会で取り上げてほしい項目のアンケートを実施し、事業所内で毎月職員が講師を務め、権利擁護等の研修を行っている。フロアの壁に「がんばり票」を掲示し、利用者はその日の体調に合わせてリハビリやレク活動等、30種類の中から出来ることの活動を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を新しくして二年目、職員同士共有し合い、入居者さん、ご家族の思いに寄り添えるように努力をしている。ホール・職員用トイレ等に掲示。また来客からもすぐに見えるように掲示している。	理念の共有と実践については、利用者の状態の変化に伴い、常に理念は変わるものだとの考えから、昨年全職員で意見を出し合い、作り上げている。地域密着型サービスの意義を踏まえた理念は、ホールとトイレに掲示している。理念を日々のミーティング等で確認し共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が毎日のように訪問してくれる。また、地域の中学生の職場体験、保育園の慰問等の受け入れを行っている。合同敬老会ではたくさんのボランティアの余興もあった。	事業所と地域とのつきあいについては、夏休みに地域の中学生を対象に、認知症についての勉強会を開催し、話し相手等のボランティアとして受け入れている。小学校の食育講座に、利用者と職員が参加している。近所の方が1日数回訪れ、チラシでのごみ箱づくりや差し入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は2回ではあるが、職員が認知症サポーター養成講座を開催した。施設入所の申し込みだけではなく、在宅を継続できるように相談を行っている。実際、施設入所を希望していたご家族が在宅生活を選択したこともあった。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容・事故等の報告を行っている。また、事例報告を行い、第三者からの意見をいただくことでケアに繋げている。楽しい雰囲気での会議が行われていると感じている。	運営推進会議は、利用者、家族、行政職員、地域の方が参加し年6回定期的実施されているが、委員として知見者の参加が確認できない。報告事項は野外活動及び事故報告等が行われている。外部評価の公表もされているが会議録が整備されていない。	会議を効果的に運営する上からも、知見者を委員に加え、議事録は透明性のある内容が求められることから会議録の整備が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活福祉課や介護長寿課へ定期的に入居者さんの近況を報告している。	市町村との連携については、直接市担当窓口を、利用者と共に訪問している。運営推進会議や市グループホーム連絡会に、行政も参加し情報を共有している。利用者が行方不明になった場合のネットワーク作りとして、グループラインを作り、どのような体制が必要か検討を重ねている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束について勉強会を行っている。毎月のミーティングでも身体拘束について毎回話している。現在行っている身体拘束についても、この行為が身体拘束にあたることを意識するようにし、これ以上の身体拘束が行われないように試行錯誤を行っている。	身体拘束をしないケアを基本にプライバシーについての勉強会等を実施し理解している。緊急止むを得ず同意を得て行った身体拘束については、経過観察を含めて検討して終了している。転倒リスクのある利用者の居室はマットを使用している。家族の了解を得て廊下にカメラを設置し安全面に配慮している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っている。一般的な虐待だけではなく、入居者さん個人について、どの行為が虐待にあたるかも職員で話している	身体拘束による弊害・高齢者虐待防止の基本・権利擁護の定義について月1回勉強会を開催し、内容及び対策を理解している。不適切な言葉かけやケアについての話し合い等周知徹底し、気に懸かる言葉使いの場合は管理者等が注意している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度の勉強会は行ってはいない。後見人と話す機会を意識して設けることで、第三者がどのように関わっているのかを少しずつ理解できているように感じる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人・ご家族に対し、分かりやすい簡潔な言葉で説明することを心掛けている。質問しやすい雰囲気づくりも意識している		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に近況報告を行っている。また、入居者さんの状態によっては、ご家族に来てもらい、説明報告をし、今後の話し合いを行っている。運営推進会議にも参加してもらい、第三者に意見を話せるような機会も設けている	利用者からの意見は、日々の支援中に直接聞いている。家族からは、面会時や運営推進会議等で聞いている。本人の誕生会にお酒を出してほしいとの要望があり、ノンアルコールカクテルを提供し、希望に添える支援に取り組んでいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングだけではなく、日々の申し送りでも職員が意見が出しやすいような雰囲気づくり、また、こちらから質問・相談をすることも意識している。不安等があれば、迅速に皆で共有するようにし、協力し合えるように努めている	職員意見は、毎月のミーティング時や年1回の個別面談の他、業務中にも随時聞いている。職員から食事作りと入浴時間が重なった場合は、ホールに1名増員してほしいとの要望がありシフトの見直しを行い業務改善に反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の長所を生かし、楽しみややりがいを感じてもらえるように仕事を割り振りしている。モチベーションを維持するためにも希望休等は可能な限りシフトに組むようにしている	年末に個別面談を実施し、職員の実績等を評価し、昇給や有資格者手当等、処遇に反映させている。職員の希望に沿えるような勤務体制や有休を利用した旅行が出来るように調整している。職員が向上心を持って働けるよう有給による研修参加や資格取得を推奨している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の勉強会の他にも訪問看護の看護師の勉強会も行っている。また、可能な限り外部への研修にも参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会やキャラバンメイト連絡会に参加している。同グループのグループホームと合同レクを行って親睦うい図っている。また、実現していないが、他市町村のグループホームと交流k会を計画している		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話しやすい環境づくりを意識し、傾聴を行っている。基本情報を元に本人と話し合い、安心のある関係づくりを心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の想い・不安・要望を傾聴、一緒に考え話しやすい環境をつくり、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前事業所、ご家族からの情報をまとめ、アセスメント、モニタリングを行い、ケアの提供をするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る家事などを手伝っていただき、一緒に日常生活を実感してもらえるよう心掛ける。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	適宜、近況を報告、継続的なケアについてご家族と検討、説明を行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで住み慣れた場所へドライブに行き、買い物をしたり、知り合い友人がグループホームへ遊びに来ていただけるよう雰囲気づくりをしている。	親戚や友人が訪れ気軽にウオーターサーバーやコーヒーメーカーが利用できるよう設置している。市内約30店舗が加盟する、市が発行する75歳以上が利用できるシルバーパスを利用し、薬局等で毎月500円分の買い物をしている。好みの化粧品や衣類の買い物に馴染の店へ出掛けしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの個性、互いの相性を考慮しながら日常生活、レク活動へ参加できるよう支援する。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも出来る支援を行い、相談を受けフォローを行うようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち思いを傾聴、表出困難な場合はご家族からの情報、本人の表情、日常生活からの情報を得るようにしている。	利用者の思いは、居室や外出した時等に聞いている。困難な方へは分かり易い言葉かけをし、本人が選択できるよう努める他、アセスメントで把握している。帰宅願望がある利用者へは自宅周辺のドライブに出掛けている。孫の結婚式に参加したいとの希望を叶える為、医師や家族と連携し着付け等を行い、職員3名が同行し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人と話し、ご家族、前事業所からの情報をいただき把握、環境を整えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人のペース、一日一日の心身状況に合わせて出来ること役割を担ってもらい、様子観察、情報共有把握する。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、職員が参加の担当者会議にてご本人の意向、希望、必要なことを出し合い計画作成、サービス提供するよう努めている。	担当者会議は計画作成担当者が主催し、利用者や家族、介護職、看護師、リハビリ担当等が参加し、意見を反映し介護計画を作成している。日々の介護記録は、支援内容に沿ってチェックし、職員と計画担当者がモニタリングを実施している。計画は短期目標の期間に沿って見直し、状態変化による見直しも行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を行い、提供したケアへの反応、心身状態を記録し情報の共有、ケアの継続、見直しの計画作成を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のその時その日の心身状態に必要なケアを提供できるよう心掛けている。ご家族の不安、ニーズに応えられるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護、訪問美容を利用し、買い物、外食、散歩に出かけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続受診を行っている。記録、情報を医療機関に伝え連携を図っている。	利用者の受診状況はかかりつけ医の継続や、協力医2人、訪問診療1人となっている。受診は家族対応を基本としているが、止む無く職員対応もあり、状態に応じて家族に同行する場合もある。受診時の情報は状態・状況等特記事項をメモ書きやFAX等を活用して共有している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化を報告・記録し情報共有。訪問看護に申し送り、助言を求め次に繋がるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者情報はまとめて医療機関へ提供している。定期的に情報提供、交換するよう心掛けている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、家族の意向・希望を確認、話し合いを行っている。出来ること、出来ないことを明確にし説明、同意を得たうえで全力で支援出来るよう努めている。	「看取り」を経験後に職員の意見を反映して、事業所として「指針」を策定している。看取り体制を整え、看取りケアについて継続的に研修を重ねている。利用者の入院時に家族と話合っている。看取りへの準備として、訪問診療へ切替る際には担当者会議を重ね検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応、応急手当の勉強会を定期的に行い、対応方は資料を掲示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防避難訓練を消防署員立会いのもと実施。近隣住民にも協力依頼周知をしている。台風など災害対策もしている。	災害訓練は年2回消防署の協力で夜間想定で実施し、職員は訓練の前に避難誘導等指導を受け、消火器等の扱い方には近所の方も参加している。訓練後の評価で、火の元となり得る機器清掃等にも取組み、災害用備品は3袋に用途別に用意し、避難場所等も確認している。	



自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊重、一人一人にあった声かけ、ケア、支援を心掛けている。QOL、守秘義務の勉強会を実施している。	利用者の個性を尊重し「自分らしさ」を表出できるように支援している。利用者の言動を否定せず、何を訴えているか、どう思っているかの気持ちに添えていく、利用者個々でケアも全て違うと理解し支援している。職員は守秘義務について、月1回の勉強会で確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望、意向を尊重、話しやすい環境をつくり、ご家族からの助言もいただけるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、心身状態、ペースに合わせて過ごしてもらえるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に合わせ、買い物をしたり着替えてもらっている。女性入居者にはマニキュアや化粧をしてもらっている。また男性には電気シェーバーを使用し自分で髭剃りができるように準備している		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物、食べたいものを季節に合わせ、一人ひとりに出来る限り形ある食事の提供。料理の下ごしらえ食器洗いを手伝ってもらっている。	食事は3食担当職員が調理し、職員も1日1食は必ず食する事としている。食材の買出しには利用者が同行するので、利用者の好きな食材で献立が決まる場合もある。介助を受ける利用者2名の他は、利用者自身が選んだ席で相性の合う仲間と会話をしながら食事をしている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の食べやすい形態での提供、摂取量のチェック。ご本人が希望する食べ物の提供。水分は自由に摂取できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の残存機能を活かし一人一人に合った口腔ケア、足りないと感じた時には職員が補っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄間隔の把握。ご本人が困難な場合は定期誘導を行い、一人一人に合わせた声かけ残存機能を活かし支援を行っている。	排泄の自立支援については、排泄の訴えを言葉にできず、単語や仕草、特定場所へ移動等での表現を職員はサインと見極め支援している。利用者がトイレ排泄を継続できるよう、排泄時の立位や座位保持を目的に、日中の体操等にも努めている。利用者の多くが日わりハビリ用や布製のパンツで過ごされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医、医療機関からの助言、排便周期の把握、ご家族からの情報助言をいただいている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の心身状態に合わせ、本人の希望に沿った日、時間で行っている。	入浴は月水金と週3回を基本に、利用者の要望、朝早く入りたい等にも対応し、女性利用者には同性での支援がされている。利用者の皮膚状態に合わせて洗剤等はクリスマス等でプレゼントし使用している。入浴を拒む場合は、声かけのタイミングや職員による対応を工夫し入浴に繋げている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の心身状態に合わせ一人になりたいとき、皆と一緒にいたい時など安心安全に休息できる環境の提供ができるよう心掛けている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人お薬の情報を確認できるよう資料の作成。誤薬を防ぐために薬の色、個数など、すぐに確認できるよう一覧表を作成し、薬をセットする際には照らし合わせている。薬剤の変更があれば、業務日誌・申し送り等で周知している	利用者の服薬調整については、受診時等に医師と直に相談して調整している。服薬管理は、薬が確認できる表の作成、保管箱、保管場所を徹底して、誤薬の発生防止に努めている。また、薬のセット、利用者に服薬を配布する時、飲む時等確認の頻度を増やして事故防止に繋げている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人がこれまでの生活の中で行っていた得意なこと好きなことに合わせた家事、お手伝いの依頼。ドライブや散歩など気分転換など一人一人に合った対応を心掛けている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望、ご家族からの助言をいただき外出支援を心掛け、必要な時には外出先の関係者にも協力を依頼している。	利用者の外出支援は毎月の外出記録簿に記載している。利用者の用途に合わせ、外国産のシャンプーを求め行きつけの店舗や、地域の情報を得て車椅子でも散歩が可能な場所にも出かけている。遠出や日々の食材購入等、外出の機会を増やし、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせ金銭管理してもらい、必要な物や希望している買い物があるときは一緒に買い物に行く。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成30年 3月20日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から希望があった際は電話の取次ぎやり取りを支援している。年賀状作りも一緒に行っている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や月ごとに合わせた季節感を感じる手工芸を作成し掲示・展示している。居住空間は一緒に清掃を行っている。	共用空間は全面ガラス窓となっている。ソファや4つのテーブル等を設え、利用者がおやつを食べたり、食材の下ごしらえ、季節の掲示物の作成をしたり、各々過ごしている。壁には干支や節分の作品を掲示し、廊下等合わせて4つの時計、日めくりカレンダーを掛け、日常生活環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファ、一人掛けソファを置き、一人一人の心情に合わせた環境作りを心がけている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が慣れ親しんだ生活用品、家具等をご家族協力のもと使用してもらっている。個々の居室に入る際は一緒に入る、了承いただいてから入室するように心がけている。	居室は利用者各々持込がなされ、掲示物や観葉植物等、個々の趣味等が活かされた環境となっている。中には、携帯電話と充電器を持参している利用者もいる。利用者の身体能力等に合わせたベッドの高さを調整し、2居室はマットを使用している。利用者の私物については、確認表を作成し把握している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の能力、残存機能に合わせて居室内の環境整備を行っている。ご自身の居室が確認出来るように工夫している。建物内は自由に行き来行動できるよう整備を行っている。		

(別紙4(2))

事業所名：グループホームまえはら

作成日：平成30年4月19日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	(3)	運営推進会議委員に知見者がいない。 議事録が整備されていない。	知見者を委員に加えることで情報交換、助言を仰げる場とし、地域との交流を深める会議とする。また、会議録を整備することで、話し合った内容を入居者、ご家族、職員と共有する。	同法人内の管理者、市内のグループホーム連絡協議会において、事業所間の運営推進会議への参加を依頼する。会議内容の透明性を確保するため議事録を整備する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。